

〔研究ノート〕

生活科におけるカリキュラム・マネジメントの省察

—コロナ禍のスタートカリキュラムの実践から—

武部 浩和
Hirokazu Takebe

大阪総合保育大学
児童保育学部

本稿の目的は、生活科を中心にしたスタートカリキュラムの実践を省察し、カリキュラム・マネジメントの課題を見出し、今後の可能性を明らかにすることである。長期化するコロナ禍のスタートカリキュラムは、カリキュラム・マネジメントによる省察と戦略が不可欠である。まず、2019年度の西生野小学校のコロナ禍前のスタートカリキュラムの実践を描き出し、その魅力や意義を考察する。次に2020年度の喜連北小学校のコロナ禍中のスタートカリキュラムの実践を描き出し、困難に向き合う教職員の意識の変容について省察する。そして、2校のスタートカリキュラムのカリキュラム・マネジメントから、アフターコロナの「接続」の可能性を明らかにする。

キーワード：生活科、スタートカリキュラム、カリキュラム・マネジメント、省察

I 問題の所在

「ゼロからのスタートじゃない」¹⁾。

幼児期の学びの芽生えと児童期の自覚的な学びを「接続」するスタートカリキュラムが展開されている。文部科学省(2017)の総則第2-4-(1)には、「特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。」²⁾と明示されている。

2020年度は、全国の小学校が学習指導要領の改訂による新教育課程の全面実施の年度であった。育成を目指す「資質・能力」の明確化、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善の推進、各学校における「カリキュラム・マネジメント」の推進などが示された教育課程の基準をもとに学校改革を展開していく年度であった。新1年生のスタートカリキュラムについては、平成時代の「小1プロブレムの対応」、「安心・安全の学校づくり」から、令和時代の「接続」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連」へと進化した実践を実現すべき年度であった。

しかし、2020年度はコロナ禍ではじまった。入学式当日から学校休業を余儀なくされた小学校もあった。

やがて、安心安全の居場所と学びを止めない学力保障で学校は再開された。感染拡大防止の施策や各校の取り

組みなどで学校の機能は維持している。しかし、先が見えないという不安な日々や混乱の中で、子ども・保護者・地域住民・教職員などに疲弊感や閉塞感などが蔓延している。

今日ほど、具体的な学習活動や体験を重視する生活科は、カリキュラム・マネジメントによる修整や改善を必要としている時はない。

本稿の目的は、生活科を中心にしたスタートカリキュラムの実践を省察し、カリキュラム・マネジメントの課題を見出し、今後の可能性を明らかにすることである。

コロナ禍前とコロナ禍中の特色あるスタートカリキュラムの実践事例やカリキュラム・マネジメントを紹介、省察していく。

IIでは、コロナ禍前の西生野小学校の2019年度のスタートカリキュラムを省察する。学校と地域の強みを活かすカリキュラム・マネジメントによるスタートカリキュラムの実践を紹介する。そして、実践からスタートカリキュラムの魅力や意義を明らかにする。

IIIでは、コロナ禍中の喜連北小学校の2020年度のスタートカリキュラムを省察する。入学式の日から学校休業になった子どもの気持ちを第一に考えたカリキュラム・マネジメントの省察である。日々のホームページの発信で、学校発の安心感、学びに向かう力の保障などで試行錯誤を繰り返してきた教職員の意識の変容を明らかにする。

IVでは、2校のスタートカリキュラムの実践から見えてきた成果や課題、教職員の省察的实践者としての育ち

やレジリエンスなどを考察する。そして、アフターコロナを見通した令和時代のスタートカリキュラムのカリキュラム・マネジメントの可能性を追究する。

II コロナ禍前の西生野小学校のスタートカリキュラム

1 自校の強みを活かすカリキュラム・マネジメント

2017年度、校長として2校目の西生野小学校へ赴任した。全児童数100人前後の小規模校である。天王寺・阿倍野ターミナルの近隣にあるが少子高齢化が進む校区である。2022年には近隣の小中学校が統廃合されて新しく義務教育学校が設立される予定である。

西生野小学校は、「地域とともにある学校」を先行する地元の小学校である。学校行事や地域イベントが一体となり、夏祭りや花火大会、運動会やキャリア教育などが小学校を起点に毎年実施されている。

これら地域の強みを活かして、カリキュラム・マネジメントをはじめることとした。田村知子(2016)を参考に、西生野小学校のカリキュラム・マネジメントモデルを作成した。モデルを日々活用できるように教職員や地域住民への可視化や共有化を試みた。次の図1は学校・地域で共有した2019年度の西生野小学校のスタートカリキュラムのモデルである。

図1のIは学校教育目標である。創立以来60年以上も地域住民に定着している目標である。あらゆる教育法規を基盤にした、知・徳・体のバランスの取れた教育目標である。今後の「生きる力」や「生き抜く力」の育成をめざし、学校・地域が一丸となれる学校教育目標である。この学校教育目標を実現するために、学校経営戦略

として「自校・地域の『強み』を活かして、子どもの学力獲得を保障する」を明記した。

図1のIIとIIIはPDCAマネジメントサイクルである。IIは、子ども自身が獲得する学びのカリキュラム・マネジメント力である。予測不能な時代を生き抜くのに必要な問題解決的な学力をPDCAでとらえることにした。子どものパフォーマンスなど具体的な学びの姿をPDCAで想定している。IIIは、子どもの学びのPDCAを支える指導・支援、教職員の仕事を明示したものである。教職員の仕事として、子どもの思いや願いを「傾聴」すること、子どもの学びのパフォーマンスを「承認」すること、そして、多様な考えを学びあうことで「修整」していくこととした。これらのIIやIIIのPDCAマネジメントサイクルの考え方は、授業改善や指導と評価の一体化などに取り組む教職員の意識変革に有効であった。

図1のIVは校内の組織構造と組織文化についてである。用語が難しいという教職員の思いを受けとめて、組織構造を自校の強み「人・もの・財」、組織文化を自校の強み「文化・雰囲気」とした。「自校の強み(ええとこ)」に気付く教職員が増えつつあった。

図1のVは校外の家庭・地域等や教育課程・行政も同様に、「地域のええとこ」「教育行政のええとこ」というイメージで提案している。自校を支える地域連携や諸施策等を「強み」として気付き、活かそうとする教職員が増えてきた。

2 学校・地域が一丸となったスタートカリキュラムの実践

2019年度 西生野小学校のスタートカリキュラムのカリキュラム・マネジメント

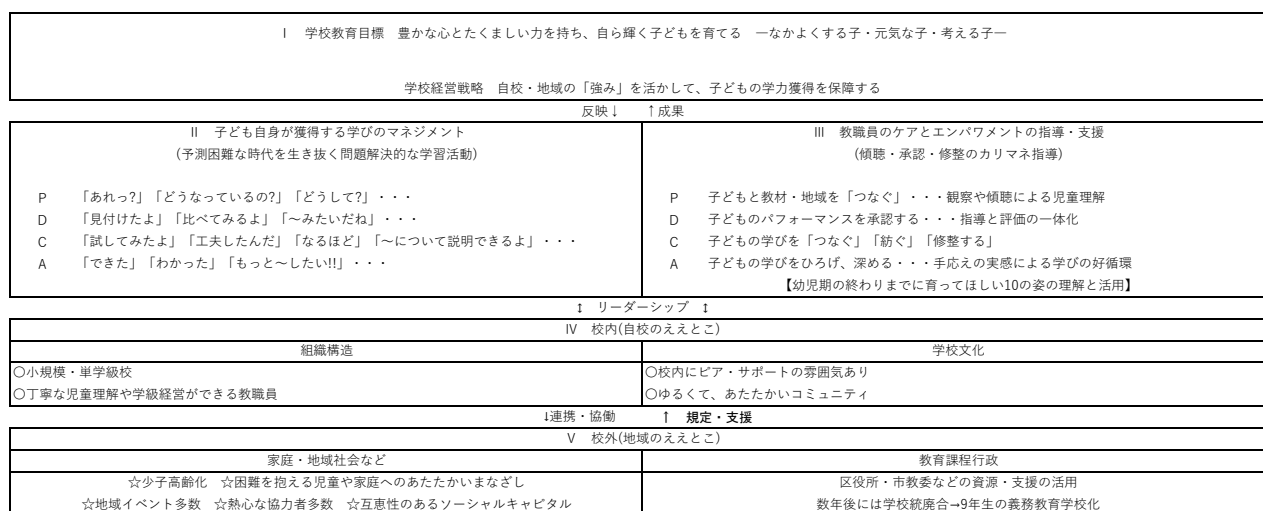


図1 西生野小学校のスタートカリキュラムのカリキュラム・マネジメントモデル(筆者作成)

上記のような自校の強みをカリキュラム・マネジメントモデルで可視化・共有化して、学校・地域が一丸となって新1年生の子どもたちのためのスタートカリキュラムを継続・充実させることにした。

(1) 地域参加を願う「花火大会」

西生野小学校のスタートカリキュラムは、前年度の地域の花火大会から始まる。子どもも保護者も地域に参画し、地域とともにある小学校区の一員であるという意識を高めるためである。プレ・スタートカリキュラムが前年度から地域イベントに位置付けられている。

2019年8月24日、夏休み最後の土曜日の夜に恒例の花火大会が実施された。19時から子ども参加の花火大会である。学校の運動場に広がって手持ち花火を楽しんでいる。もちろん安全確保のために保護者・地域住民のサポートのもとで実施されている。

「来年は1年生やね」「今日はおうちの人と一緒やね」「火傷しないように注意してね」など、あちらこちらから地域住民の優しい声が聞こえてくる。

19時30分からは大人たちの花火大会である。子どもたちは見学となる。歴代のPTA役員や学校協議会のメンバー、連合町会や地域活動協議会の役員らが2000発の打ち上げ花火を披露する。フィナーレは1週間前から準備してきたナイアガラで盛りあがる。一人では何もできないが、地域住民が力を合わせれば花火大会で仲良くなれることを、就学前の子どもたちに体験してもらいたいという願いがある。

当日の西生野小学校(2019)のホームページには、次の記載がある(写真略)。

8月24日(土) 恒例、西生野小学校区花火大会(1)

雨もあがり、花火大会がはじまっています。まずは、子どもたち全員参加の手持ち花火です。そして、間もなく西生野小学校区名物の打ち上げ花火がはじまります。

【お知らせ】2019-08-24 19:46 up!

(2) 運動会の「とことこジャンプ」(就学前児童プログラム)

秋のプレ・スタートカリキュラムである。西生野小学校では、毎年の運動会で就学前児童の参加プログラムを実施している。2019年10月6日(日)の就学前児童プログラムは「とことこジャンプ」であった。PTAや連合町会役員らが、子どもたちにとって安全で簡単なハードル走の企画・運営をした。入学予定児童1名と在校生1名がペアになり、手をつないでひらひらのハードルを飛び越えていく。競走ではなく、新1年生と在学生在が

チームになり、お互いのピア・サポートで運動会を楽しむことがねらいである。新1年生には、小学校の広い運動場を体感すること、先輩たちがピア・サポートをしてくれること、学校も地域も応援してくれていることを学んでほしい運動会である。

当日の西生野小学校(2019)のホームページには、次の記載がある(写真略)。

10月6日(日) はぐくみ運動会(5)

未就学児童の「とことこジャンプ」です。高学年児童のピア・サポートでひらひらのハードルをとんでいきます。ゴールには地域のみなさんがプレゼントを用意して待っています。

【お知らせ】2019-10-06 11:03 up!

(3) 入学説明会時の「がっこうたんけん」

冬のプレ・スタートカリキュラムである。2020年2月6日(木)は入学説明会であった。毎年のものであるが、保護者向きには入学説明会を実施し、その間の新1年生は5年生の先輩たちと学校探検を楽しむことになっている。5年生の先輩たちが保育所や幼稚園等にはない小学校の施設や遊具など、新1年生がワクワクするようなどを考えて案内をする。

当日の西生野小学校(2019)のホームページには、次の記載がある(写真略)。

2月6日(木) 新1年生入学説明会・わくわく体験学習

元気な新1年生が来校しました。保護者の皆様には「入学説明会」、子どもたちには「わくわく体験学習」です。5年生児童がピア・サポートで校内を案内しました。

【お知らせ】2020-02-06 14:55 up!

小規模校の強みを活かしたピア・サポートで、この日の出会いから新1年生と新6年生のペアができる。そして、4月の入学式には、このペアが手をつないで会場に入場してくる。コロナ禍前の西生野小学校の特色ある入学式であった。

3 西生野小学校のスタートカリキュラムの省察

田村知子(2018)はカリキュラム・マネジメントを次のように定義している。「各学校が教育目標を実現化するために、学校内外の諸条件・諸資源を開発・活用しながら、評価を核としたマネジメントサイクルによって、カリキュラム開発と実践を組織的に動態化させる、戦略的かつ課題解決的な組織的営為である。学習者の教育的成長を目的とし、実態分析や目標設定を行い、組織とし

て適切かつ効果的なカリキュラム開発と授業実践とを効果的・効率的かつ適切に推進するための理論と方法である。』³⁾

多忙な小学校にこそ、戦略的で、効果的で、効率的なカリキュラム・マネジメントが必要不可欠であると受けとめている。西生野小学校のカリキュラム・マネジメントモデルは戦略的である。自校や地域の強みを活かすことで学校改革・授業改善等を展開している。小中学校の統廃合が間近な小規模校こそ、お互いの強みを活かしたイベントを継続・充実させていく必要があるとの問題意識でまとまっている。

(1) 学校の強みの視覚化

ホームページを活用して学校の強みを視覚化している。西生野小学校の強みのひとつに「ピア・サポートの学校づくり」がある。小規模校のたてわり班活動が盛んな学校である。学年間の壁はない。1年生から6年生の子どもが10人ぐらいの班活動を毎週水曜日の始業前に実施している。健康観察であったり毎月の歌を練習したり、サマーフェスティバルやふれあい遠足などの企画や運営をたてわり班で実施している。仲間が仲間をサポートするという雰囲気が学校の中にある。しかも、ゆるくて優しい学校文化が形成されている。

各学年間の連携・交流学习も盛んである。4月当初の1年生の給食については、6年生がサポートする。2年生の算数の九九の学習では、5年生の子どもたちがペアになってサポートする。低学年の子どもがタブレットの活用ができるように高学年の子どもが操作の仕方をサポートするなど、学年間の壁はなく後輩も先輩もポジティブな関係づくりができていく。

スタートカリキュラムは前年度からの継続で、6月のサマーフェスティバルまで、生活科を中心にピア・サポートによるたてわり班活動で展開されていく。安心できる学校や居場所としての学校が保障されつつある。

(2) 地域の強みの共有化

地域の強みとして「地域とともにある学校への協力」がある。ターミナル駅に近いが昭和の風情が残る地域である。少子高齢化の真只中にある。入学式は、新1年生児童が20人弱、来賓の高齢者が30人強で実施されている。地元の小さな小学校を守っていこうという意識が強い。これが地域の強みである。

学校主催の入学式、サマーフェスティバル、キャリア学習、運動会、学芸会、卒業式などはもちろん地域の協力なくしてはあり得ない。地域主催の夏祭り・盆踊り、花火大会や区役所関連イベントなども学校起点である。ウィン・ウインの関係で西生野小学校のカリキュラム・マネジメントが展開されている。これらの強みをできる

だけホームページで発信している。地域の強みを子ども・保護者・地域住民・教職員等で共有することができる。

スタートカリキュラムについて、地域は協力的である。新1年生の子どもたちはもちろん、保護者も巻き込んだ地域参加や参画を願っている。各町会ではどの子どもが新1年生になるのか確認しながら学用品のプレゼントなどを行っている。高齢者との七夕の笹飾りづくり、防災訓練、地元のスポーツ活動の普及、クリスマスプレゼントのタイミングでの家庭訪問など、春夏秋冬の戦略的な地域・学校連携を展開している。

子どもの存在を受容し、子育てで頑張っている保護者を承認し、学校・地域とのつながりをつくり、地域の安心と活性化を実現しようとする戦略がある。

(3) 誰もが省察的实践者

西生野小学校の特色あるカリキュラム・マネジメントを支えているものは何か。それは、誰もが省察的实践者であることであろう。

ドナルド・A・ショーン（監訳 柳沢昌一・三輪健二；2007）では、「省察的实践者としての教師は、生徒たちに耳を傾けようと試みる。教師はたとえば、生徒の状況に直面して一連の問いを自分自身に投げかける。この場合この生徒はいったいどのように考えているのだろうか。生徒の混乱はいったい何を意味しているのだろうか。生徒がすでに知っているやり方はどのようなものなのだろうか。』⁴⁾と表記されている。

具体的な活動や体験が中心になる生活科では、教職員は常に省察的实践者であり続けなければならない。前項図1のカリキュラム・マネジメントモデルでも、子どもの学びを支える教職員の仕事として傾聴・承認・修整を大切にしてきた。子どもたちにも小規模校の強みを活かしたピア・サポートの考え方が定着している。

地域への参加・参画を願う住民も、省察的实践者である。少子高齢化や地元の学校の統廃合が進む中での省察的实践者である。学校がなくなるらしいという情報から新1年生の子どもも保護者も不安や心配事が多い。地域住民はそれらの声を受けとめて、地域学校連携イベントへの参加・参画を願って、まちづくりを推進している。プレ・スタートカリキュラムもそれらの戦略のひとつである。

Ⅲ コロナ禍中の喜連北小学校のスタートカリキュラム

1 緊急事態宣言下のスタートカリキュラム

2020年度、校長として3校目の喜連北小学校へ赴任した。全児童数約400人の中規模校である。校区内に田畑や高速道路、旧街道や環濠集落跡などがある。旧農村に新興住宅やマンションが建ち並ぶ住宅街にある学校である。校内には、創立以来50年以上の自然園や池泉庭、学習園や柑橘園などがある。かつて昭和の終わりには理科教育の研究学校であった。

2020年度はコロナ禍中ではあるが新教育課程の全面実施の年であった。しかし、入学式前日に緊急事態宣言が発せられ、入学式当日から休校を余儀なくされた。「休校中であってもスタートカリキュラムは実現できるのではないか」という全教職員の共通理解のもと、ホームページでの発信をベースにカリキュラム・マネジメントを推進することにした。次の図2は喜連北小学校で可視化・共有化したカリキュラム・マネジメントモデルである。

2020年度のコロナ禍の生活科を中心にしたスタートカリキュラムを構築するにあたり、全教職員で共通理解したことが、文部科学省(2017)の生活科の指導計画の作成と内容の取扱いに関する記述である。「他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通じた総合的な学びから他教科等における学

習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。」⁵⁾

「接続」重視のスタートカリキュラムであること。ゼロからのスタートではないこと。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を活かすことを全教職員で共通理解することから始めた。そして、自校の強みを活かしたカリキュラム・マネジメントを推進していくことにした。ホームページで情報や教材等を発信するときには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をイメージしておくことや、子どもや保護者の安心感と期待感を高めていく情報や教材等を発信していくことにした。

2 安心感と期待感をはぐくむホームページの発信

(1) 突然の学校休業

入学式の当日、新1年生の子どもと保護者に心配をかけないように、リアルタイムで状況を伝えることにした。入学式は延期になったが、教科書や御祝饅頭などは配布できるようになったこと。3密を避けて、正門付近の屋外アプローチで教科書等配布を実施すること。桜がきれいに咲いていることから写真コーナーを設置したことなどを発信した。また、第1学年担任団からのあいさつやお願いなども発信することができた。双方向にはならなかったが、コロナ禍の様々な制限事項を共有することで何とか子どもや保護者とつながることができた。

次の表1は、入学式当日から休校になったことを伝えるホームページを時系列で一覧にしたものである(写真は略)。

2020年度 喜連北小学校のスタートカリキュラムのカリキュラム・マネジメント

I 学校教育目標 「自ら学ぶ子・思いやりのある子・きたえる子」の育成	
学校経営戦略 自校・地域の「強み」を活かして、子どもの学力獲得を保障する	
反映 ↓ ↑ 成果	
II 子ども自身が獲得する学びのマネジメント (予測困難な時代を生き抜く問題解決的な学習活動)	III 教職員のケアとエンパワメントの指導・支援 (傾聴・承認・修整のカリマネ指導)
P 「あれっ?」「どうなっているの?」「どうして?」・・・ D 「見付けたよ」「比べてみるよ」「～みたいだね」・・・ C 「試してみたよ」「工夫したんだ」「なるほど」「～について説明できるよ」・・・ A 「できた」「わかった」「もっと～したい!!!」・・・	P 子どもと教材・地域を「つなぐ」・・・観察や傾聴による児童理解 D 子どものパフォーマンスを承認する・・・指導と評価の一体化 C 子どもの学びを「つなぐ」「紡ぐ」「修整する」 A 子どもの学びをひろげ、深める・・・手応えの実感による学びの好循環 【幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解と活用】
I リーダーシップ ↓	
IV 校内(自校のええとこ)	
組織構造	学校文化
○児童数約400人の中規模校 ○困難を抱える児童や家庭に向き合う教職員集団 OPCが得意な教職員	○コロナ禍の授業改善への意欲が高い ○自校の強み「自然園・池泉庭・学習園など」の活用 ○一人一台PCやGIGAスクールなどへの期待が大きい
I連携・協働	
V 校外(地域のええとこ)	
家庭・地域社会など	教育課程行政
☆とりあえず全家庭とのオンライン授業はできそうな雰囲気 ☆環濠集落や河内木綿を研究する喜連村史の会 ☆互恵性のあるソーシャルキャピタル	区役所の出前授業の活用 市教委などの資源・支援の活用

図2 喜連北小学校のスタートカリキュラムのカリキュラム・マネジメントモデル(筆者作成)

表1 喜連北小学校(2020)で発信した情報一覧 4.7 (筆者作成)

公開日時	記事内容	「10の姿」との関連
2020-04-07 06:24 up!	緊急 4月7日(火) 本日の入学式は延期です。昨夜の大阪市教育委員会の報道発表で、本日予定されていた全市の小学校の入学式は延期となりました。宣言・発令をみなしてのものです。残念です。	①健康な心と身体④道徳性、規範意識の芽生え
2020-04-07 08:08 up!	緊急 新1年生保護者様にお知らせです。入学式は実施できませんが、新教科書や御饅頭などは、配布したいと思います。検温・マスクの着用・手洗い等をすませて、正門・玄関付近の受付に取りに来てください。桜もきれいです。「3密」を守っていただければ写真撮影も可能です。受付時間は9時10分から11時までといたします。ご多用の方は夕方5時までに職員室に受け取りに来てください。	①健康な心と身体④道徳性、規範意識の芽生え
2020-04-07 10:15 up!	緊急 入学式の延期について(お詫び)。本日実施予定だった入学式について、大阪市教育委員会より、以下通知がありましたのでお知らせします。貼付「入学式の延期について(お詫び)」	①健康な心と身体④道徳性、規範意識の芽生え
2020-04-07 10:52 up!	新1年生の保護者様へのお知らせ。本日、9時10分から11時まで屋外受付で新教科書やお饅頭などを受け取りに来てもらうようにしました。11時から17時までは職員室で配布いたします。	①健康な心と身体④道徳性、規範意識の芽生え
2020-04-07 17:04 up! 【1年生】	本日は、お子さまのご入学おめでとうございます。このような状況の中でおうちの方には、とてもご心配をおかけしています。私たちも子どもたちに会えることを楽しみにしていました。本日、書類を取りに来ることができた方は、教科書等には、記名などをしていただき、大切に保管し、提出書類等のご確認もお願いいたします。また、子どもたちと、元気な笑顔で会うことができることを心待ちにしております!○「学級休業中しゅくだい」○「ひらちゃん読書ノート」○書類の中には、「にこにこ」の学年だより等が入っています。学年だよりの予定などは、未定となってしまいましたのでご了承ください。ご心配をおかけしますが、お家の方の温かいご協力を今後どうぞよろしくお願いいたします。1年生担任	①健康な心と身体②自立心 ④道徳性、規範意識の芽生え ⑥思考力の芽生え

校長と第1学年担任団で一方的な学校発の情報が、子どもや保護者の安心感につながるように記事内容を検討した。そして、ゼロからのスタートでない小学校の「資質・能力」「見方・考え方」の育成につながる「10の姿」を想定しての情報発信であった。さらに、他学年の教職員にもホームページ作成の要点が伝わるようにした一覧である。

例えば、2020-04-07 08:08 up 記事である。みんなの健康を守るために入学式は実施できないこと、しかし、感染拡大防止のルールを守れば新教科書や御祝饅頭の配布や写真撮影ができることを伝えたかった。この状況をゼロからのスタートではない「10の姿」を意識し関連づけて伝えることができたら、スタートカリキュラムとして少しでも前進することができるのではないかとすることを、教職員への研修資料としたのである。

(2) 校長からの「チャレンジ楽習」の発信

緊急事態宣言による学校休業でも、春のよい天気が続いた。本来なら新1年生の生活科はスタートカリキュラ

ムで「がっこうたんけん」を実施しているはずである。以前から計画的に栽培されていた学習園の春の野菜や果物を観察していたはずである。

自校の強みを子どもたちに伝えたいという思いで、ほぼ毎日のように校長室から「チャレンジ楽習」をホームページで発信することにした。

次の表2は「はるの がっこうたんけん」ということで発信したホームページのメッセージ一覧である(写真略)。全教職員で「10の姿」や「各教科等の見方・考え方」を意識したホームページを作成する際の研修資料として共有化したものである。

特に新1年生には、自校の強みである自然園や学習園の様子を「10の姿」の⑦自然との関わりを伝えるようにした。

「うちの子ら、いつも私のスマホで校長先生のチャレンジ楽習を見ますよ」、「うちの学校ってすごいんですね。早く再開式をして自然園を採検させてやってくださいよ」など通勤経路で声を掛けてくれる保護者がありが

表2 喜連北小学校(2020)で発信した情報一覧 4.8～5.7 (筆者作成)

公開日時	記事内容	「10の姿」との関連
2020-04-08 11:33 up!	学習園にきれいな花が咲いています。よく観察してみると白くて、薄紫色で…。根もとを見てみると、だいこんの花でした。生活科や理科などの学習に活用してください。休業中もY小学校ならではの「きっかけ教材・調べてみたくなる仕掛け教材」をホームページで発信していきます。	⑦自然との関わり・生命尊重
2020-04-08 13:25 up!	桜吹雪があざやかです。土の上には花びらのじゅうたんができています。よく観察してみると、桜の葉っぱができてきました。満開・桜吹雪・葉桜への変化を楽しんでください。	⑦自然との関わり・生命尊重
2020-04-08 13:25 up!	チャレンジ楽習(第1回)。臨時休業中ですが、本校の学習園や自然園などの学習情報を発信していきます。さて、今日の「チャレンジ楽習」(第1回)は「だいこんの花の変化」です。今朝、学習園で発見しました。だいこんの花が種になっていく様子を学習することができます。	⑦自然との関わり・生命尊重
2020-04-15 12:21 up!	きのうの「だいこんの花の変化」に続いて、今日は「菜の花の変化」です。中庭の菜の花にモンシロチョウが来ています。花の下に種ができています。だいこんの花とよく似ていますね。「菜の花とだいこんの花の変化で似ているところを2つ見つけましょう。」これが今日のチャレンジ楽習です。	⑦自然との関わり・生命尊重
2020-04-16 12:55 up!	中庭でイチゴができています。白い花から真っ赤なイチゴになるまでのプロセスを説明できるかな。写真を見て、開花→結実のお話をつくってみてください。	⑦自然との関わり・生命尊重
2020-05-01 12:59 up!	自然園はワンダーランドです。大量の羽化した虫が羽ばたこうとしています。木の上からは何かの幼虫がぶらさがっています。春から初夏への自然園でした。	⑦自然との関わり・生命尊重
2020-05-07 13:58 up!	五月晴れ。さわやかな青空です。飛行機雲がくっきりです。さて、どうして飛行機雲ができるのかな? 説明してください。ネット調べてみるとおもしろいですよ。	⑦自然との関わり・生命尊重

たかった。

また、学校再開後も「だいこんの花を初めて見た」や「イチゴができるのがよく分かった」、「なぜ5月に飛行機雲がよく見えるのか、お父さんに教えてもらったよ」や「はやく自然園に行きたいな」などと話をしに、校長室を訪ねてくる子どもたちがたくさんいた。学校休業中だからこそ学びへの渇きが強かったようである。

(3) 第1学年担任団からのメッセージ

ホームページでの教材発信のチャレンジは続いた。新1年生にとっては、せつかく教科書を入手はしたが、どのように使うのか、何を読めばいいのかわからないという声が保護者から出てきた。第1学年担任団にも対面授業ができないという、いつもとは違うストレスが出てきている。そこで、「ゼロからのスタートではない」「接続重視」のスタートカリキュラムのねらいを活かして、第1学年担任団がホームページで発信し続けた。次の表3は、新しい教科書の読み方や活用の仕方を発信したものである(写真略)。記事内容や写真で「10の姿」を刺激するようにしている。

ホームページの活用、発信といってもやはり限界がある。幼児期の遊び体験・絵本読書などである程度の接続はできる。しかし、各家庭の事情でスマホを見ながら親子で教科書を開いてみる学習活動には限界がある。早期の学校再開を望む声や、低学年らしい生活科学習への期待などが職員室に伝わってきていた。

(4) いよいよ登校日




分散・短時間登校であるが、いよいよ授業開始ということになった。次の表4は学校再開への安心感と期待感をはぐくむためにホームページで発信した情報である(一部写真略)。全学年の子どもたちと保護者に伝えたかったことは、次の3点である。

- ・3密を避けるために集団登校は中止にしたこと
- ・ソーシャルディスタンスを守って個人登校をすること
- ・これまで以上に、交通安全に注意して地域別に登校すること

表3 喜連北小学校(2020)で発信した1年生の情報一覧 4.27～5.1 (筆者作成)

公開日時	記事内容	「10の姿」との関連
2020-04-27 11:42 up! 【1年生】	1年生の図画工作科の教科書「たのしいな おもしろいな ずがこうさく 1・2上」の12・13ページ「ちょきちょきかざり」を見て、紙を折ったり重ねたりして切ってみましょう。はさみを使うときは、必ずお家の人しましょう。はさみの使い方は、64ページ、のりの使い方は65ページにあります。どんな形ができるかな?できた形で飾ってみましょう!お部屋が明るくなりますよ!後片付けもきちんとしてみましょうね!	②自立心⑩豊かな感性と表現
2020-04-27 11:44 up! 【1年生】	1年生の道徳科の教科書「しょうがく どうとく いきるちから1」の16ページには、たくさんの動物たちが過ごしている様子が描かれています。いいことをしている動物もいれば、わるいことをしている動物もいるようです。たくさんの動物たちを見つけてお家の人に伝えてみましょう。また、教科書に挟んでいる「どうとくのーと」の6ページにもいろいろな動物たちが描かれています。よいことには○を、わるいことには×を書いてみましょう。はやくみんなとお勉強できる日を楽しみにしています。	②自立心④道徳性・規範意識の芽生え
2020-05-07 13:19 up! 【1年生】	5月5日は、こどもの日でしたね!こいのぼりは見たことがありますか?音楽科の教科書「小学生のおんがく1」の6・7ページや78ページに「こいのぼり」の歌が載っています!お家の人と一緒に歌ってみてくださいね。	②自立心⑩豊かな感性と表現
2020-05-12 11:16 up! 【1年生】	今日は1年生の学習園にある種をまきました。さて、みなさんに問題です。この種は何の種でしょう?見たことがある人もいます。漢字では「向日葵」と書きます。答えは「ひまわり」です。大きく育ってくれるようにみんなで水やりをして一緒に育てていきましょう。さて、花には必ず「花言葉」というものがあります。ひまわりの花言葉は「あなただけを見つめる」です。ひまわりは太陽のある方に向かって咲くことからこのような花言葉になったそうです。自分の知っている花などの花言葉を調べてみるのもいいですね。向日葵には黄色以外にもいろいろな色があるようです。花言葉も花の色によって変わるようです。興味のある人はぜひ調べてみてくださいね。そして国によっても花言葉は変わるようです。韓国では「待っててね」です。全員で会える日までみなさん元気に「待っててね」。	⑦自然との関わり・生命尊重 ⑨言葉による伝え合い
2020-05-14 09:15 up! 【1年生】	今日は先生たちであさがおを植えました。入学オリエンテーションのあとの登校日でまず種の観察をします。あさがおの種とひまわりの種が生活科の教科書28ページにのっています。学校に来る前に一度見てみましょう。観察をするときは、目で見たり、手でさわったりしながら種がどんな様子かを観察してみましょう。そのあとみんなとあさがおの種を植える予定です。楽しみにしておいてくださいね。	⑦自然との関わり・生命尊重

表4 喜連北小学校(2020)で発信した情報一覧 5.11～5.15 (筆者作成)

公開日時	記事内容	「10の姿」との関連
2020-05-11 11:56 up!	登校日を前に、ソーシャルディスタンスのポスターを通学路に掲示しています。学習サポーターや保健室の先生など教職員一丸となった手作りのポスターです。登校日はしっかりと受けとめて、安心・安全の登下校を守ってください。	⑤社会生活との関わり 
2020-05-11 12:08 up!	先生方で掲示してくれたソーシャルディスタンスのポスターです。友だちとの間を「2メートル以上はなれて」、「1列で」登下校することがポイントです。ステイホームでしっかりイメージしておいてください。	⑤社会生活との関わり 
2020-05-12 10:33 up! 【1年生】	みなさん元気に過ごしていますか?いよいよ15日にみなさんと会うことができますね。講堂に集まった後みなさんは少しの間ですが、教室に入ります。門を入れてすぐ上を見上げると、みなさんが入る教室の窓にはかわいい動物たちや花などが出迎えてくれています。オリエンテーションに来られた際には、お子様と一緒にぜひ確認してみてくださいね。	⑤社会生活との関わり
2020-05-13 09:02 up!	2・3・4年生の登校日です。みんなソーシャルディスタンスに注意して登校しています。2時間目・3時間目からの登校の人も「お互いの安心・安全」の意味を考えておいてください。	⑤社会生活との関わり 
2020-05-15 09:09 up!	本日10時から入学オリエンテーションを始めます。検温で健康チェックをしてから登校してください。保護者とともに通学路の安全確認をしながら登下校してください。入学式ではなく、「登校日」です。学習参観日のイメージで普段着(保護者)や標準服(児童)で登校してください。	①健康な心と体④道徳性、規範意識の芽生え
2020-05-15 15:23 up!	5月15日(金)入学オリエンテーション、10時から入学オリエンテーションを無事行うことができました。元気いっぱい的一年生に会うことができよかったです。お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。来週からの登校日も元気に登校してくれればと思います。	②自立心

この期間こそが、新しい生活科を中心にしたスタートカリキュラムを実現していくチャンスであると考えた。文部科学省(2017)の生活、第2-2-(1)を教職員全員で再読した。「学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。」⁶⁾

各学年担任団からいろいろなアイデアが出てきた。「ソーシャルディスタンスのポスターを作ろう」「2メートル間隔で通学路に掲示しよう」「集団登校から個人登校になったことでの不安軽減にもなる」等々、子どもたちの安心・安全を第一に考えたアイデアである。これで、コロナ禍にどうしていいかわからないといった教職員の不安を、教職員一丸となったレジリエントな思考とポジティブな行動に方向転換することができた。

新1年生の子どもや保護者に生活科を中心にしたス

タートカリキュラムの意義や重要性を発信したかった。スマホ等で登校日前日の教職員の仕事を観察し(具体的な活動や体験を通して)、ポスター掲示の意味やコロナ禍の安全な登下校について考え(思考力、判断力、表現力等の基礎)、これから始まる自分の学校生活には様々な人や施設と関わっていること(知識及び技能の基礎)を分かるようにすることが情報発信のねらいである。「2020-05-13 09:02 up!」のホームページでは、新1年生の子どもや保護者に、前日の先輩たちの登校の様子を反転学修してほしいと思った。

スマホ等で登校日の先輩たちの登校の様子を観察し(具体的な活動や体験を通して)、ポスター掲示を守ることの意味やコロナ禍の安全な登下校について考え(思考力、判断力、表現力等の基礎)、これから始まる自分の学校生活に取り入れようとする(学びに向かう力・人間性等)をねらいにした生活科としての情報発信である。

3 喜連北小学校のスタートカリキュラムの省察

コロナ禍、入学式当日から学校休業となった。混乱の中でのスタートカリキュラムであった。「自校・地域の強みを活かして、コロナ禍中の子どもの学力獲得を保障する」という学校経営戦略を教職員全員が共通理解するところからのスタートであった。

教務主任に聞いてみると、自校の強みは自然園しかないということであった。それでは、休校になっても自然園の情報をホームページで発信し続けて、子どもたちに安心感と期待感をはぐくみ続けようということになった。前任校の西生野小学校のカリキュラム・マネジメントをベースに、新転任校喜連北小学校のカリキュラム・マネジメントモデルを作成し、全教職員で共通理解を図った。

前日の緊急事態宣言の発令により、本校の2020年度の入学式は延期となった。早朝からの教頭の働きで学校としてできることは何かを考え、ホームページを発信し続けた。せっかくPTAが用意してくれた御祝お饅頭と、1年生の子どもが初めて手にする教科書だけは屋外で密にならないように短時間で配布することにした。管理作業員の提案を受けて、桜がきれいな正門横で記念写真コーナーを作ることにした。第1学年の担任団からはお祝いの掲示物を屋外に飾りたいという提案もあった。子どもの期待に何としても応えたいという教職員の頑張り、自校の強みが見えてきた。

この時、佐藤(2015)の一節を想起した。「専門分化した科学的技術の適用のみを行っている専門家は、山の頂上において泥沼であえぐ市民の問題の解決にはなんら貢献しえない。専門家自らが泥沼に降りて市民と連帯し、複雑さと不確実性が支配する現実と格闘しなければならない。この新しい専門家たちが依拠しているのは科学的技術の合理的適用の原理ではなく、現実と経験から学び、あらゆる知識と経験を総合する実践的認識論であり行為の中の省察であると、ショーンは指摘する。」⁷⁾

喜連北小学校の教職員は「行為の中の省察」でショーンの言う省察的实践者としての力量を発揮している。学校再開まで約1か月間、ほぼ毎日のように全学年担任団がホームページを活用して教材等を発信していた。

第3学年担任団は学習園のキャベツの葉っぱからモンシロチョウの卵を発見し、幼虫・さなぎへと成長するプロセスを理科学習としてホームページで発信し続けた。そして、再開の日々に羽化するというタイミングで子どもたちと共に教室から羽ばたかせたのである。

第1学年担任団の行為の中の省察が始まった。再開後に生活科の学習で学校探検をするという。自分たちの学校生活を支える教職員や他学年の子どもたち、校内施

設などとの出会いがねらいであるらしい。毎年なら校内オリエンテーリングを実施していた。1年生の子どもたちがグループになって教職員にサインやシールをもらってくる学校探検である。

第1学年担任団は、コロナ禍に恒例のふれあい学校探検の実施は難しいと判断したようである。生活科教育30年以上の形骸化を心配しての省察でもある。

そこで、前述のホームページの写真の教材化である。コロナ禍に向き合い、登校日の準備をする教職員の写真ではなく、楽しみของเกม感覚で教職員と出合わせるのではなく、子どものために安心安全な登校ができるように頑張っている教職員の姿に気付くことが、本来の生活科を中心にしたスタートカリキュラムではないかという省察と実践であった。

IV 今後の生活科のカリキュラム・マネジメントの課題と可能性

これまで西生野小学校と喜連北小学校のスタートカリキュラム実践を省察してきた。

西生野小学校の実践は、自校のピア・サポートの強み、コミュニティ参画を戦略的に展開する地域の強みを活かしたスタートカリキュラムであった。前年度からのプレ・スタートカリキュラムともいえる様々なイベントへの参加は、地域とともにある学校のカリキュラム・マネジメントである。新1年生の子どもたちにとって、スタートカリキュラムは学校・地域参加の第一歩である。また、若い保護者にとってはコミュニティの一員としての参加・参画の第一歩となる。自校の強みを探し、地域の強みとつながるためのカリキュラム・マネジメントで、子どもの思いや願いを第一とする多様な省察的实践者と出会えることができた。

喜連北小学校の実践は、コロナ禍の混乱の中でのスタートカリキュラムであった。教職員の意識改革の根底には、カリキュラム・マネジメントの共有化と行為の中の省察がある。「コロナ禍だから〇〇ができない」という発想から「コロナ禍だから〇〇ができる」という意識改革である。そして、不安や混乱の中にあっても省察することで形骸化が心配されていた生活科スタートカリキュラムの修整・改善を図ってきた。

2校のスタートカリキュラムの実践と省察から学ばべき肝要は、

- ・自校・地域の強みを活かすカリキュラム・マネジメントの共有化
- ・省察的实践者としての教職員・保護者・地域住民等の意識改革

タブレットで朝顔の写真を撮り、観察日記を描きました。タブレットの使い方にも、ほんの少し慣れてきた様子の1年生です。



【1年生】2020-07-03 11:01 up!

図3 タブレットを活用する1年生

の2点である。

文部科学省(2017)第1章総則 第1-4には、カリキュラム・マネジメントについての記述がある。「各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下「カリキュラム・マネジメント」という。)に努めるものとする。」⁸⁾

カリキュラム・マネジメントの要点として、次の3点にまとめることができる。

- ①児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- ②教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
- ③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

特に②のPDCAマネジメントサイクルであるが、CAPDマネジメントサイクルを推奨しているように読み取ることができる。具体的な活動や体験を重視する生活科のカリキュラム・マネジメントにおいては、西生野小学校や喜連北小学校のような省察的实践者が必要だということではないだろうか。地域の特色や強みとつながるための省察と改善、コロナ禍だからこそできた形骸化している学習活動の省察と改善は、省察的实践者の「行為の中の省察」そのものである。

次の図3は喜連北小学校(2020)の「2020-07-03

11:01 up!」のホームページである。たくましい1年生の姿が発信されている。コロナ禍の第一波も落ち着きを見せ始めてきた1学期後半の「あさがおの かんさつ」の授業場面である。一人一台タブレットの活用であさがおの観察記録を整理できている1年生である。アフターコロナのGIGAスクールではタブレットやパソコンを文房具のように使いこなす子どもがほとんどであろう。

省察的实践者は、子どもたちの学校休業中の学びへの渇きやタブレット活用への期待などを省察して、学校の強みとつなぎ、新しい生活科の学び方を指導している。「接続」をキーワードに「活動あって学びなしの生活科」から「気付きの質にこだわる生活科」への改善の実現には、省察的实践者のカリキュラム・マネジメントが必要不可欠となる。

注

- 1) 文部科学省・国立教育政策研究所(2015)や大阪府幼児教育センター(2018)には、幼小接続のキーワードとして「ゼロからのスタートではない」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が明示されている。小学校の教職員全員が理解しておかなければならないキーワードである。
- 2) 文部科学省(2017)のp17、第1章総則第2-4-(1)より引用。
- 3) 田村知子(2018)のp130より引用。
- 4) ドナルド・A・ショーン、監訳 柳沢昌一・三輪健二(2007)p349より引用。
- 5) 文部科学省(2017)のp112、第2章各教科第5節生活第3-1-(4)より引用。
- 6) 文部科学省(2017)のp110、第2章各教科第5節生活第2-2-(1)より引用。
- 7) 佐藤学(2015)のp70-71より引用。
- 8) 文部科学省(2017)のp18、第1章総則第1-4より引用。

文献

- ドナルド・A・ショーン、監訳 柳沢昌一・三輪健二 (2007)
省察的实践とは何か—プロフェッショナルの行動と思考— 鳳書房 【Donald A. Schön (1983) *The Reflective Practitioner: How Professionals Think in Action*. Basic Books Inc】
- 大阪府幼児教育センター (2018) スタートカリキュラム学びの接続モデルリーフレット p1-16
http://wwwc.osaka-c.ed.jp/oyk-c/information/pdf/start_curriculum_connection.pdf (2021年8月27日)
- 大阪市立喜連北小学校 (2020) ホームページ過去の記事
<http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e751740> (2021年8月27日)
- 大阪市立西生野小学校 (2019) ホームページ過去の記事
<http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e671496> (2021年8月27日)
- 佐藤学 (2015) 専門家として教師を育てる—教師教育改革の

グランドデザイン 岩波書店

- 田村知子 (2016) 第3章 カリキュラム・マネジメントの全体構造を利用した実態分析 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編著「カリキュラムマネジメント・ハンドブック」ぎょうせい p36-55
- 田村知子 (2018) 第4章2-(1) カリキュラム・マネジメント 日本教育経営学会編「講座 現代の教育経営5 教育経営ハンドブック」学文社 p130-131
- 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領 (平成29年告示) p1-327
- 文部科学省・国立教育政策研究所 (2015) スタートカリキュラムスタートブック p1-14 https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/startcurriculum_mini.pdf (2021年8月27日)

付記

開示すべき利益相反状態はない。

Reflections on Curriculum Management in Living Environment Studies : From the Practice of the Start Curriculum in COVID-19

Hirokazu Takebe

Osaka University of Comprehensive Children Education

The purpose of this paper is to reflect on the practice of the start curriculum centered on living environment studies, identify issues in curriculum management, and clarify future possibilities. In the prolonged COVID-19 pandemic, the start curriculum is essential for reflection and strategy by curriculum management. First, we depicted the practice of the start curriculum before COVID-19 in Nishiikuno Elementary School in 2019, and considered its appeal and significance. Next, we drew out the practice of the start curriculum of COVID-19 in Kirekita Elementary School in 2020, and reflected on the changes in the consciousness of faculty and staff who face difficulties. Then, from the curriculum management of the start curriculum of the two schools, the possibility of “connection” of post- COVID-19 will be clarified.

Key words : living environment studies, start curriculum, curriculum management, reflection